

[様式]

意見書

平成 19年 5月 18日

郵政民営化委員会事務局 あて

郵便番号 152-8551

住所 東京都目黒区大岡山2-12-1  
東京工業大学大学院理工学  
研究科

建築専攻 藤岡研究室

DOCOMOMO Japan事務局

提出者名 DOCOMOMO Japan  
代表 鈴木博之(東京大学大  
学院教授) 

連絡先 03-3408-8291 (研究室)

日本郵政公社の業務等の承継に関する実施計画に対する郵政民営化委員会の調査審議に向けた意見募集について、以下のとおり意見を提出します。

郵政民営化の問題は、多くの問題を含む事案であり、その成果については国民の多くが期待を寄せているところであります。

今回の実施計画につきましては、新聞紙上において、東京、大阪、名古屋の中央郵便局局舎について、高層化による再開発を図る方針との記事が見られました。しかしながら各地の中央郵便局局舎は、わが国の建築近代化の歴史のなかで極めて重要な位置を占める文化的遺産であり、それらの建物が都市景観のなかで占めている役割もまた大きいものであります。

われわれ建築・都市専門家は、これまで日本建築学会、日本建築家協会および DOCOMOMO Japan を通じて郵政建築の重要性を訴える要望書を提出して参りました。これに関しては、同封の文書をご覧くださいませようお願いいたします。

又 DOCOMOMO Japan では、2006年7月19日に日本建築学会、日本建築家協会の協力を得て「東京中央郵便局の価値」と題するシンポジウムを行い、この建築の価値と存続することの意義

について考察し、広く社会にも伝え共感を得ました。

今回の計画がこれらの貴重な文化遺産を消去し、都市景観を破壊するものであるならば、それは都市と建築に対する暴挙となりましょう。都市景観として長く親しまれた、歴史的な建築を失うのであれば、それは今後の日本の都市が経済第一主義の非文化的で索漠たるものとなることを意味するであります。

われわれは高層化を視野に入れるとしても、近代化の歴史を示す現局舎建築と共存する道を探るべきであると主張いたします。これに関しては専門家の立場から、提案・計画立案等でご協力する覚悟であります。

民営化委員会におかれては、郵政民営化に関して高いご見識をもってご議論されることと拝察いたします。何とぞわれわれの主張を勘案した将来像をご呈示くださることを希望する次第であります。